

# こむぎ通信

令和5年 第5号

越冬前の生育確保のため、**適期作業**を心懸けましょう  
**種子消毒**を徹底し、雪腐病の防除に努めましょう！

## 1 令和5年産の生育調査結果（最終）

### (1) 生育期間の気象状況（十和田市アメダス）

開花期（5月下旬頃）以降の気温は、平年並～平年より高く推移した。また、降水量は6月上旬までは平年より少なかったが、6月中～下旬は平年より多かった。日照時間は平年より多かった。

### (2) 生育・収量調査結果

県生育観測ほの成熟期は7月2日（平年比6日早）であった。

県生育観測ほでは、 $m^2$ あたり穂数・一穂粒数・千粒重は平年を上回り、容積重は平年並であった。

図-1 気温と降水量

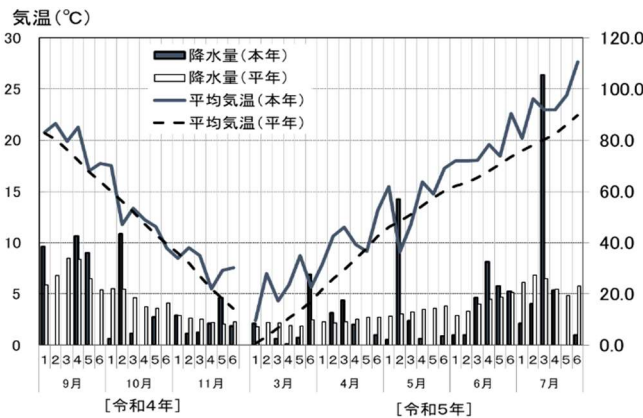


図-2 日照時間

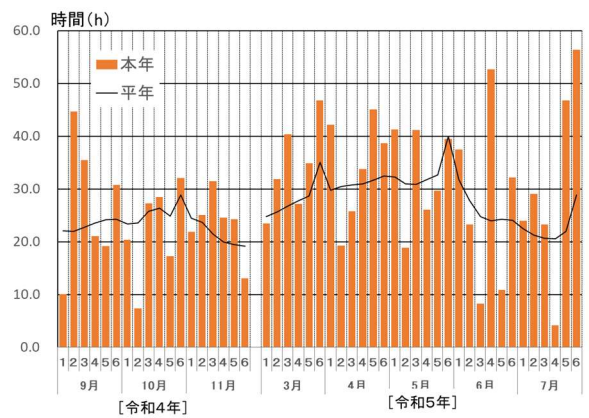


表-1 生育調査結果

品種:ネバリゴン

地点名	年度	生育ステージ					成熟期
		は種期	幼穂形成期	止葉抽出期	出穂期	開花期	
県生観 十和田市 相坂	本年	10月6日	3月23日	5月4日	5月16日	5月24日	7月2日
	平年	9月27日	4月2日	5月9日	5月22日	5月29日	7月8日
	比・差	9日遅	10日早	5日早	6日早	5日早	6日早
地区生観 十和田市 赤沼	本年	9月27日	3月23日	5月4日	5月14日	5月21日	6月26日
	平年	9月28日	4月3日	5月12日	5月18日	5月29日	7月8日
	比・差	1日早	11日早	8日早	4日早	8日早	12日早
地区生観(晩播) 十和田市 相坂	本年	11月2日	4月5日	5月7日	5月17日	5月25日	7月4日
	平年	10月27日	4月11日	5月12日	5月20日	5月27日	7月7日
	比・差	6日遅	6日早	5日早	3日早	2日早	3日早

地点名	年度	成熟期			収量調査					
		稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/ $m^2$ )	一穂粒数	全重(kg/10a)	子実重(kg/10a)	千粒重(g)	容積重(g/L)	等級
県生観 十和田市 相坂	本年	84.4	8.7	894	46.4	121.1	57.8	34.8	803	1
	平年	80.2	7.9	597	30.2	105.3	42.7	32.6	814	1.4
	平年比	105	111	150	154	115	135	107	99	—
地区生観 十和田市 赤沼	本年	86.1	8.8	402	47.6	111.2	52.5	36.8	820	1
	平年	80.4	8.1	456	34.5	94.6	39.4	32.8	822	1.6
	平年比	107	108	88	138	118	133	112	100	—
地区生観(晩播) 十和田市 相坂	本年	58.7	7.8	393	42.6	108.9	57.6	37.4	825	1
	平年	69.1	8.0	679	45.2	116.8	57.3	34.5	818	1.3
	平年比	85	98	58	94	93	100	108	101	—

※ 平年値は、十和田市相坂が平成14～令和4年産、十和田市赤沼が平成19～令和4年産、十和田市相坂(晩播)が令和2年～令和4年産の平均値

※ 止葉抽出期の平年値は、十和田市相坂が平成27～令和4年産、十和田市赤沼が令和元～令和4年産の平均値

## 2 令和6年産小麦の栽培に向けて

### (1) 土づくり

- ・耕起・砕土は出芽、苗立ちの確保に関わる作業のため、丁寧に行う。
- ・ほ場の団地化を図り、明きょや弾丸暗きょ等を施工し、十分な排水対策に努める。
- ・苦土石灰等により土壌改良を行い、適正 pH6.0～6.5 に矯正する。
- ・地力増進のため、堆肥を施用する。

### (2) は種

- ・雪腐病等の種子伝染性病害の効率的な防除のために種子消毒を行う。
- ・は種深度は浅いと除草剤の薬害が出やすく、深いと出芽不良になりやすいため、1～3 cm程度とする。
- ・は種時期は9月20日頃に行い、は種量はドリル播きで6～8 kg/10aとする。  
9月25日以降には種する場合は、2 kg/10a程度は種量を増やす。

#### 【参考 農薬使用基準（種子消毒）】

薬剤名	適用病害虫	使用方法	希釈倍数・使用量	使用回数
ベンレートT 水和剤20	雲形病、条斑病、なまぐさ 黒穂病、裸黒穂病、斑葉病	種子粉衣	乾燥種子重量の0.5%	1回
ペフラン液剤 25	条斑病、なまぐさ黒穂病、紅 色雪腐病、ふ枯病	種子吹き付け処理 又は塗抹処理	原液を乾燥種子1kg あたり3～5ml	1回
	紅色雪腐病	塗抹処理	5倍を乾燥種子1kg あたり15～25ml	1回
			10倍を乾燥種子1kg あたり30～50ml	1回

### (3) 除草剤

- ・土壌処理剤は、は種後速やかに全面土壌散布する。また、雑草発生後に施用すると著しく効果が落ちるため、必ず雑草が出る前に処理する。
- ・9月～10月中旬には種したほ場や、前年に雑草が多かったほ場は、秋のうちに除草剤を散布し、越冬後の作業に備える。

#### 【参考 農薬使用基準（除草剤）】

	薬剤名	使用時期	使用方法	10aあたり使用量 (散布液量)	使用回数
土 壌 処 理	トレファノサイド 乳剤	は種後出芽前～3葉期まで (雑草発生前～雑草発生始期)	雑草茎葉散布 又は 全面土壌散布	200～300ml (100%)	2回 以内
	ボクサー	は種後～麦2葉期まで (雑草発生前～雑草発生始期)		400～500ml (50～100%)	2回 以内
	リベレーター フロアブル	は種後～麦3葉期まで (雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)		60～80ml (100%)	1回
茎 葉 処 理	ハーモニー75DF	は種後～麦2葉期まで	雑草茎葉散布 又は 全面散布	5～10g (100%)	1回
		麦3葉期～節間伸長前		5～10g (50～100%)	1回
	アクチノール乳剤	穂ばらみ期まで (雑草生育初期)		100～200ml (70～100%)	2回 以内